

平成27年度 第1回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
議事録

日 時	平成27年5月26日(火)			開 会 午後 1時30分	閉 会 午後 3時40分
場 所	全員協議会室	出席者数	委員定数12名中 出席者10名		
出席者	委 員	金子委員、齋木委員、関根委員、長南委員、星委員、森田委員、 岩村委員、鏡委員、昼間委員、根岸委員 ※欠席 深野委員、吉田委員			
	事 務 局	星野市長 【事務局職員】 島田総合政策部長、水口政策企画課長、磯谷政策企画課副課長、 高野政策企画課主任 (株)富士通総研 藤原			
配付資料	第1回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 次第 資料1 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会条例 資料2 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿 資料3 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」 資料4 地方版総合戦略(富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略) 資料5 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制 資料6 平成27年度富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 スケジュール(案) 参考資料 富士見市総合計画 第5次基本構想・中期基本計画				
公開・ 非公開	公開(傍聴 5名)				

会 議 事 項	
I	委嘱状交付式 市長より委員へ委嘱状を交付
II	富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略総合戦略審議会
1	開会 総合政策部長
2	市長あいさつ 富士見市長 星野信吾
3	委員紹介 資料1・2参照
4	会長及び副会長の選出 互選により、会長に鏡委員、副会長に昼間委員を選出。
5	会長・副会長あいさつ 鏡会長、昼間副会長よりあいさつを頂く。
6	諮問 富士見市長から鏡会長へ諮問書を手交する。
7	議事 (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について 資料3・4により事務局から説明。
	<u>質疑応答</u>
	委 員：県の人口ビジョンはいつ示され、市の人口ビジョンと県の人口ビジョンとの 整合性はどうするのか。また、先行型の交付金対象事業は単年度のみなのか、 次年度以降やその財源はどうするのか。
	事務局：県の人口ビジョンは11～12月頃完成見込みと聞いているが、あらためて 情報収集したい。先行型の事業は、既存の計画を踏まえて前倒しすべき事業 をこれに充てているが、国が平成28年度以降の交付金の考え方を示してい

会 議 事 項	
	ないこともあり、今後、事業を継続実施するかは、市の財源も勘案しながら検討していきたい。
委 員：	富士見市でも人口減少は始まっているのか？
事務局：	第5次基本構想（平成22年度）時、将来的には緩やかに人口が減少すると予測しているが、最新のデータで推計する人口ビジョンを、7～8月を目途にお示ししたい。
委 員：	先行型の事業で、どの程度が地元にお金として落ちているのか？
事務局：	住宅改修費補助は、市内業者への発注を前提としている。但し、太陽光発電システム奨励金は、製品の取扱い状況により市外業者発注となる場合もある。
委 員：	市の予算規模を考えると、現在は市内に対象企業がなくても、育成していくという方向性も必要ではないか。
事務局：	地域への愛着を醸成し、どうしたら地域でお金が回ることを促進できるような仕事の仕組みできるかということも検討したい。
委 員：	総合戦略は市もかなり力を入れている取組みと思うが、先行型の交付金事業は地域活性化組織で検討している内容もある。また、これまであまり成果を上げていないと思われる事業があるように思う。総合戦略を策定する前から先に動いてしまっているプロジェクトがあるのはなぜか。
事務局：	先行型の交付金事業は、総合戦略の早期策定と関連する施策に対し国が先行して支援したもの。平成26年度3月補正予算において、既存事業の中から抜き出して事業を実施しているもので、これから策定していく総合戦略とは切り離してご理解頂きたい。総合戦略の策定は、様々な視点から、審議会、庁内組織、市民、議会等と連携し進めていく。
委 員：	デザインによる問題解決に注目が高まっているが、総合的なディレクションを誰がするのが重要となる。先行型交付金事業とは一定程度切り離してということであったが、同じ市の中で実施することなので、地方創生に関して横断的に統括する責任部署を決めなくてはいけないのではないか。
事務局：	地方創生では、計画策定・進行管理・検証がより一層厳しく問われると理解している。各所管に対しても、事業をやって終わりではなく結果をどう活かす

会 議 事 項
かを考えるようにしていきたい。
会 長：地方創生の本当の意味での事業は、これから検討していくもので、より効果を意識した視点やショートトライアル、横断的な責任体制は、その中で担保されるものとする。
(2) 策定体制について
資料5により事務局から説明。
<u>質疑応答</u>
委 員：この審議会の位置づけは、事務局からの案を評価し、審議するだけか。委員側から積極的に提案・意見を出せるのか。
事務局：審議会は、市の案を委員に諮るというだけではない。様々なメンバーが知恵を出し合って作成することが前提である。但し、効率性・実現性・計画性・遵法性など、一定のルールでチェックをかけながら進めていく。
委 員：そうであれば、審議会のスケジュールはこの開催回数で間に合うのか。会議を増やすのではなく、会議と会議の間にメール等でやりとりができないか。
事務局：事前に資料や情報のやりとりは行っていきたい。具体的な方法は検討する。
副会長：審議会の特に前半は、各委員が持っている情報や本音をどれだけ提供できるかが勝負であるとする。
会 長：各委員の考えていることを一度集約する必要がある。事務局にフォーマットを作成してもらい、委員に書いてもらってはどうか。
事務局：手法は検討するが、ご提案のとおり進めていきたい。
会 長：タウンミーティングなどで、市民の意見を広く聞く機会を持ってほしい。
事務局：タウンミーティングは現在実施しているところ。作業部会等が市内に出向き幅広く意見を聞くことができればよいと考えている。
会 長：そのような予定があれば資料の中にも記載してほしい。
委 員：会場にパソコンとプロジェクターを用意してもらい、委員がその場で情報を共有できるようにできないか？
事務局：確認する。

会 議 事 項	
委 員	まちづくりに関わることは、表に出ている情報や美辞麗句だけでは動かない。裏の、光の当たらない面の情報も重要である。単純に創業支援といっても、富士見市全体のブランドが関係してくる。委員相互でも共有してほしい情報をインターネット上で出し合うことはできないか。
委 員	市民も各々意見、希望を持っており、その前提となる実態があるはず。そういった情報を収集・交換できる場があるのはよい。
会 長	プラットフォームとして、まずフォーマットをつくり、各委員が文書にして情報を集約・交換していきたい。説明が必要な情報や誤解を招きやすい情報もあるので、インターネット上での情報共有はその次の段階で考えたい。
(3) スケジュールについて	
	資料6により事務局から説明。
<u>質疑応答</u>	
会 長	次回会議まで約2ヶ月空くので、先ほどご提案の各委員の情報を集約・交換するフォーマットとメーリングリストをつくっていただき、委員の思いや光の当たらない部分の情報等を集約・共有したい。
(4) 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標などについて	
事務局	富士見市総合計画第5次基本構想・中期基本計画における6つの基本目標をまち・ひと・しごと創生総合戦略においても同じ基本目標としたい。
委 員	異議なし。
(5) 次回審議会の日程について	
	○第2回審議会は、7月14日(火)14時30分～ 全員協議会室で開催。
8 閉会	昼間副会長